

編集後記

早いもので、この4月からイナバタイムズをスタートさせて、もう1年が過ぎます。今年度は前年度のコーディネーター通信をさらにリニューアルさせ、全学部統一したものとしました。このことにより、今年度から全学部に共通した内容の記事を配信することができるようになりました。また通信のタイトルをコーディネーター通信からイナバタイムズに変更し、コーディネーターが作成するのではなく、特別支援部の全員体制で発行することを目指しました。残念ながらほとんどの通信をコーディネーターが記事を書く結果となり、お読みいただく皆様にとって、内容が偏ったしまったことはお詫びしないといけません。一方タイトル通り、タイムリーに様々な情報を流すことを心がけましたので、以前より内容については新鮮なものになったのではないかと感じております。

昨年度、本通信へのアンケート調査を実施したところ、保護者の皆様が最も必要としている情報が福祉の情報であることが分かりました。特に日中一時支援については詳しい情報を必要としているということで、今年度は夏休みが始まるまでの1学期の間、日中一時支援に関わる各施設の情報を掲載しました。その際には、施設から多大なる協力を頂き、詳しい情報を流すことができました。また、アンケート結果によると、校内の情報も掲載してほしいという意見も多く、2学期は主に行事についての情報を中心に掲載しました。3学期はこのイナバタイムズについてのアンケートの結果から、掲載してほしい内容を調べた結果、進路や就労の情報や病院の情報、各種アプリやサイトの情報を掲載しました。

私自身何よりも嬉しかったのは、このイナバタイムズへのアンケートの結果で、イナバタイムズの内容について良いと答えて頂いた人が90%を超えたこと、さらに前年度のコーディネーター通信集も90%が良いと答えて頂いたことです。また、自由記述でも保護者の皆様が楽しみにして頂いたというお声や、役に立ったというご意見を頂戴し、つくづくこの通信による広報活動に取り組んで良かったなと感じることができました。ただし一つ心残りなのは、回答いただいた意見や質問に全てお答えできなかったことです。この点は反省しなければならないと思っています。

さて、本校は三重県内の知的障害特別支援学校としては、30年以上の伝統ある学校です。広報活動ひとつをとっても県内において先進的な取り組みを行っていく必要があります。通信を冊子にするというのもその一つです。イナバタイムズへのアンケートでも70%以上の方が冊子にしてほしいという結果を頂き、今年度もこうして皆様方のお手元に届けることができました。本冊子の表紙には「家族と学校と地域をつなげるセンター的機能の新たな地平」とテーマも掲載しました。通信を始めた目的の一つに、センター的機能の充実とともに家族と学校と地域の三者が今よりもさらに密につながり、支援の輪が更に広がっていくことを目指した経緯もございます。まだまだ、本校のセンター的機能の取り組みは始まったばかりですが、いつかあの時のコーディネーター通信が、そして、あの時のイナバタイムズがあるから今の稲葉はセンターとして質の高い支援ができるようになったのだと言われるように、今後も広報活動には十分な力を注いでまいりたいと思っています。

保護者の皆様、関係機関の皆様、イナバタイムズを毎号お読みいただき、また貴重なご意見も頂きまして誠にありがとうございました。

平成25年3月22日
特別支援教育コーディネーター 西井 孝明